

2022年9月21日

三井化学株式会社

「買い物時の環境意識調査」アンケート結果を公開

約6割が「消費の現場においてプラスチックの環境問題への対策は重要度を増す」と回答

環境意識の高い層ではバイオマスプラスチックの選択意向が7割を超える

三井化学株式会社（所在：東京都港区、代表取締役社長：橋本 修）は、カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーの実現に向けて、バイオマス・リサイクル関連事業の展開を加速させるべく、新たな事業機会創出のポイントとなる消費者の買い物時の環境意識について、全国の20代から60代の男女400人を対象にアンケート調査を実施しました。今回、BePLAYER[®]／RePLAYER[®]のWEBサイトにて調査結果を公開いたしましたので、お知らせいたします。



Mitsui Chemicals Group

環境問題、 買い物するときにどれだけ意識する？

コンビニやスーパーなどでの「プラスチック削減」に向けた潮流がある中、生活者は買い物をする際にどれだけ意識しているのか。また、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの実現に向けて注目を浴びているバイオマスプラスチックや生分解性プラスチックにどんな印象を持ち、どのように購入意向に影響を及ぼしているのかを調査。

バイオマスでカーボンニュートラルへ リサイクルでサーキュラーエコノミーへ

BePLAYER RePLAYER

調査トピックス

- 消費の現場におけるプラスチックの環境問題への対策は、より一層重要度が増す
- 意識の高い層はすでに環境に配慮した購買行動を始めている
- バイオマスプラスチックの購入意向が高い

調査概要

調査形式	インターネット調査
調査対象	20歳～69歳男女
調査期間	2022年4月15日(金)～4月17日(日)

調査結果ダウンロードはこちら：https://form.mitsuichemicals.com/corporate/esg_wpdn_ja

昨今、コンビニやスーパーなどの日常の消費の現場では「プラスチック削減」に向けた潮流がある中、消費者は買い物をする際にどれほど環境問題を意識しているのか。また、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの実現に向けて注目を浴びているバイオマスプラスチックや生分解性プラスチックにどんな印象を持ち、どのように購入意向に影響を及ぼしているのか。カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの実現に向けて、消費者の意識変容と行動変容は欠かすことのできない動向です。今回、新たな事業機会の探索・創出のポイントとなる「消費者の買い物時の環境意識」を調査し、ホワイトペーパーとして公開いたしました。

■ BePLAYER®（ビープレイヤー）／RePLAYER®（リプレイヤー）

三井化学は、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー社会の実現に向け、バリューチェーンを通してグループ横断的なソリューション提案を進めるべく、「素材の素材まで考える」／「世界を素（もと）から変えていく」をキーメッセージに、BePLAYER®とRePLAYER®の2つの取り組みを推進しています。

詳細は、<https://jp.mitsuichemicals.com/jp/sustainability/beplayer-replayer> をご参照ください。

以上

<ニュースリリースに関するお問い合わせ先>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部（TEL：03-6253-2100）

問い合わせフォーム https://form.mitsuichemicals.com/corporate/cc_pr_csr_ja